



## 冬の邪魔者、その正体は…

### ■冬將軍の到来です

寒くなってきましたね。この季節、気になるのが静電気。ふと手を伸ばした瞬間に、車のドアや階段の手すりにバチッ！溜まった電気が一気に放電する瞬間です。

### ■静電気はどこから来るの？

子どものころ、下敷きをこすって頭に近づけ、髪が逆立つのを楽しんだことのある人も多いはず。モノをこすり合わせると静電気が生まれることは、皆さんもよくご存じです。

ちよつと乱暴な言い方ですが、この世のモノは概ね、電気を帯びた粒でできています。モノを形づくっている原子や分子は、プラスの電気を持つ原子核とマイナスの電気を持つ電子が組み

合わさってできたものなのです。電気力で引かれ合い、普段は互いの電気を打ち消しあっていますが、モノの種類や状態によつては、こすることで簡単に表面の電子を剥がすことができます。こうして一見何もないところから発生したかのように、静電気が生まれるのです。

### ■科学の眼で見れば

静電気がモノをひきつける現象は紀元前のギリシャで既に知られていたようですが、電子が発見されたのは19世紀末のこと。そして今、私たちの日常は電子によつて支えられています。パソコンで文章を書く、原稿の催促が電子メールで届く、メールを放つておく携帯電話が鳴り出す…すべて、電子の発見という「科学」が生み出した、電子工学エレクトロニクスという「技術」の成せるわざです。

「バチッ」という冬の邪魔者、その正体は、意外と奥の深いすごいヤツなんです。



生命の海科学館の、意外と奥の深いすごいヤツ【写真：マーブルパーチャート】  
一見、脂身がたっぷり入った生肉のようにも見えますが、実は！世界最古の化石が発見された35億年前の岩石です。科学館展示室で触るした触感をお楽しみください。



「秋」と「冬」、この境目はなかなか難しいですが、こたつ布団を準備するところまではぎりぎり「秋」、こたつのスイッチを入れたくなる寒さになったら「冬」という感じがしませんか？

そんな冬のアイテム「こたつ」のイラストをインターネットで画像検索すると、およそ7割の確率で「みかん」が載っています(ちなみに次点のネコは5割、お茶は2割強でした)。こたつといえればみかん、みかんといえれば有名産地は多々あれど、やはり地元産の「蒲郡みかん」です。

蒲郡でみかんが栽培されるようになったのは、今から300年以上も昔のこと、延宝7年(1679)の五井村「田畑新切帳(新しく切り開いた田畑の台帳)」に、数本のみかんが記録されています。

## 冬の団らんのお楽しみ コタツの相伴に「蒲郡みかん」

現在の「蒲郡みかん」のはじまりは、文政・天保年間(1818~1843)に幡豆郡から入ってきた唐みかんといわれています。明治時代の半ばごろには「神ノ郷みかん」「西郡みかん」の名前で知られるようになり、次第に栽培面積を拡大していきました。昭和に入つて一時期養蚕に押されましたが、再び盛り返し、塩津や大塚でも栽培されるようになり「三州みかん」の銘柄で東京・大阪にも出荷されました。

温室みかん(ハウスみかん)は、この地域では御津町で昭和48年から導入され、市内でも昭和50年代に入つて栽培する農家が飛躍的に増えました。

平成20年6月には、地域の特産品などを保護するために特許庁が認可する「地域団体商標(地域ブランド)」に「蒲郡みかん」が県内の農産物で初めて登録されました。地元産のお墨付き、甘くておいしい「蒲郡みかん」でビタミンCをたっぷり補給しましょう。



戦前のみかん箱ラベル